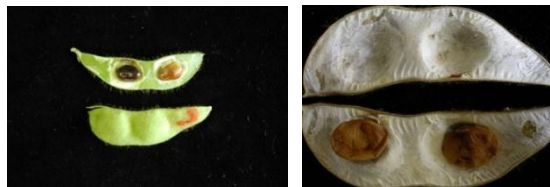


# ダイズ子実汚斑病防除による 黒大豆収量の安定化

(農林センター 環境部)

黒大豆(紫ずきん含む)の実が太らず、収量が低下しているのは新病害「ダイズ子実汚斑病」が原因でした。媒介するカメムシの防除により収量の増加が期待できます。

## 生産現場では



太らない・クズ粒が多い

生態を解明

## 新病害 **ダイズ子実汚斑病** の発見

4種類のカメムシが媒介

病原菌は2種類の植物病原性酵母

肥大しないのは病気のせい！

開花20日後にスタークル顆粒水溶剤(2,000倍)散布、さらに7日後にベルコート水和剤(1,000倍)を散布処理するとダイズ子実汚斑病防除効果が高くなります。(紫ずきんでは、スタークル顆粒水溶剤のみで同等の効果！)

こうすれば防げる

丹波黒に対するダイズ子実汚斑病の被害と防除効果

区	反復	総莢数	総粒数	子実汚斑病罹病粒数	子実汚斑罹病粒率(%)	防除価	推定被害 <sup>b)</sup> (g/株)	推定被害量(kg/10a)
試験剤区 <sup>a)</sup>	I	901	836	27	3.2	80.2	3.8	7.6
	II	802	712	24	3.4		3.4	6.7
	III	880	826	26	3.1		3.6	7.3
	平均	861.0	791.3	25.7	3.2		3.6	7.2
無防除区	I	386	350	39	11.1		5.5	10.9
	II	507	489	95	19.4		13.3	26.6
	III	269	240	45	18.8		6.3	12.6
	平均	387.3	359.7	59.7	16.4		8.4	16.7

a) 開花20日後にスタークル顆粒水溶剤(2,000倍)、7日後にベルコート水和剤(1,000倍)を散布処理

b) 推定被害: (平均粒重\*罹病粒数)/株数

注) ベルコート水和剤はエダマメに対して農業登録はありません



- ・ダイズ圃場へのカメムシ侵入初期(開花20日後)の防除徹底により、紫ずきん 約2倍、黒大豆 約10kg/10aの収量増が期待できます。